

科 目「言語文化」シバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	言語文化	単位数	3単位	学年・学科	1学年全学科
使用教科書	『新編言語文化』（大修館書店）				
副教材等	『常用漢字ダブルクリア』（尚文出版）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	小学校及び中学校国語の内容を発展させ、総合的な言語能力を育成する科目である。とりわけ言語活動の充実に役立つ国語の能力、社会人として生活するために必要な国語の能力の基礎を確実に身に付けることをねらいとする。
学習の到達目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を培い、伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
取得可能な資格	特記なし。ただし、日本漢字能力検定2級以上取得の者には増加単位を与える。
授業を受ける心構え	授業には意欲的に取り組み、始業5分前には教科書やノートの準備をし授業を「聞く」姿勢を整えておく。また、提出物は必ず期限を守って出す。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	・随想「季節の言葉と出会う」 ・古文「児のそら寝」 （宇治拾遺物語） ・小説「水かまきり」	・日本で受け継がれてきた自然観や美意識について、筆者の主張を読み取ることができる。 ・歴史的仮名遣いを学び、古文の基礎を身につける。 ・本文の訳注に注目させながら、古文に対する親しみを持つ。 ・歴史的仮名遣いや基本的な古語を理解する。 ・文学作品の描写や会話、特徴のある表現を味わい、登場人物の人間関係や心理を読み取る。	・一斉授業(座学)	平常考查 中間考查 5月中旬 平常考查 学期末考查 6月下旬
9 10 11 12	・漢文の学習 ・漢文「訓読のきまり/格言」 ・随想「足し算の文化」	・漢文訓読のきまりについて学習し、書き下し文について理解するとともに、簡易な書き下し文ができるようにする。 ・訓読のきまりに従って漢文を読み、格言の意味を学ぶ。 ・日本文化の特徴について、筆者の主張を捉えることができる。 ・身の回りの例を探しながら、日本文化の特色について理解を深める。	・一斉授業(座学)	平常考查 中間考查 平常考查 学期末考查
1 2 3	・古文「高名の木登り」 （徒然草） ・漢文「五十歩百歩」 （孟子）	・音読を通して古文に読み慣れ、文章の内容を正確に読み取る。 ・作者のものの見方や感じ方について、自分の考えを持つ。 ・「五十歩百歩」という言葉の意味について、考えを深める。 ・『孟子』で語られている教訓の意味を理解する。	・一斉授業(座学)	平常考查 学年末考查

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
表現と理解に役立てるための文法・語句 ・語彙・漢字などを理解し、基本的な知識を身につけようとしている 【定期考查・提出物出席状況】	自分の意見をまとめ、質問に即して文章の要旨のまとめ等を通して、適切に読み取ろうとしている。 【定期考查・授業態度】	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとしている。 【提出物・授業態度・発表】

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
定期考查	40	30	30	100	学習到達度の確認
平常考查	40	30	30	100	予習・復習の確認

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
地理歴史	地理総合	全学科	1	2	高等学校 地理総合(帝国書院)	なし

1 科目の目標と評価の観点

目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。					
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
	日本及び世界の各地域的特色を理解させ、地図や諸資料から地理に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付ける。		地理的な課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、それらを効果的に説明したり表現したりする能力を養う。		地理に関わる諸事象について主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	
評価の方法・割合等	定期考査 平常考査 課題プリント 等		定期考査 平常考査 課題プリント 等		平常課題 夏課題 授業態度・発表 等	
	4割		3割		3割	

2 学習計画と観点別評価基準 ※履修月は目安

学習内容		月	観点別評価基準等		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1部 第1章	1節 地球上の位置と時差	4	緯度の違いが、私たちの生活にどのような影響を与えているか理解している。	白夜、極夜がなぜおきるのか考察できる。	地球上の位置の違いにおける影響について積極的に考えている。
	2節 地図の役割と種類	5	主題図と一般図について理解している	主題図や一般図がどのようなときに利用されるか考察できる。	地図に親しみ、地図を利用しようとする態度がある。
第1部	1節 現代世界の国家と領域		日本の領域について理解している。	なぜ領土問題が起きるのか考察できる。	日本の領土問題の課題や解決に向けた動きについて積極的に調べている。
第2章	2節 グローバル化する世界	6	グローバル化に伴う様々な変化について理解している。	資料を参考に、グローバル化の課題について考察できる。	EPAについて関心を持ち、日本の現状について知ろうとする態度がある。
第2部 第1章	1節. 世界の地形と人々の生活	6 7	世界の地形の特徴や人々の生活との関わりについて理解している。	写真からどのような地形か判断できる。	地形と人々の生活との関わりについて興味を持っている。
	2節 世界の気候と人々の生活。	7	人々の生活が気候とどのように関わっているか理解している。	気温や気候が人々の生活にどのような影響を与えているか考察できる。	気候と人々の生活や文化の関わりについて興味を持っている。
	3節 世界の言語・宗教と人々の生活	9	言語や宗教は人々の生活にどのような影響を与えているか理解している。	世界の様々な課題や問題と宗教との関わりを考察できる。	様々な国の言語や宗教における行動を理解し、お互いに認め合おうという態度がある。
第2部 第2章	1節 複雑に絡み合う地球的課題	10	地球的課題の魁傑に向けて、どのような取り組みが行われているか理解している。	様々な地球的課題の解決が容易ではない理由を他者に説明できる。	地球上のすべての地域で持続可能な社会を実現させるためにはどのような取り組みが必要か話し合うことができる。
	2節 地球環境問題		地球環境問題にはどのような種類があり、どのような原因で発生するか理解している。	様々な環境問題がその場所で発生している背景を考察できる。	地球環境問題の原因や背景を調べたうえで解決策について考えている。
	3節 資源・エネルギー問題		世界の資源やエネルギーの利用にはどのような課題があるか理解している。	エネルギーの利用はどのように変化してきたのか説明できる。	持続可能なエネルギーの利用方法について積極的に考えている。
	4節 人口問題	11	世界の人口問題について理解している。	発展途上国と先進国では、典型的な人口ピラミッドの型にはどのような違いがみられるのか説明できる。	人口問題の解決方法について関心を持ち、調べようとする。
	5節 食糧問題		飢餓や飽食がなぜ発生するか理解している。	アフリカで栄養不足の人々が多い理由を説明できる。	先進国と発展途上国の食糧問題はどのように関係しているか興味を持ち調べている。

第 3 部 第 1 章	1 日本の自然環境	12	プレートが重なり合う日本列島, 日本列島の背骨をなす山地, 日本の河川と沖積平野について 理解している。	プレートが重なり合う日本列島, 日本列島の背骨をなす山地, 日本の河川と沖積平野について, 多面的・多角的に考察し, 表現している。	プレートが重なり合う日本列島, 日本列島の背骨をなす山地, 日本の河川と沖積平野について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究, 解決しようとしている。
	2 地震・津波と防災		地震の種類と特徴, 地域で異なる震災の被害について理解しており, 地理的技能を身に付けている	地震の種類と特徴, 地域で異なる震災の被害について, 多面的・多角的に考察し, 表現している。	地震の種類と特徴, 地域で異なる震災の被害について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究, 解決しようとしている。
	3 火山災害と防災	1	火山の分布, 火山の恵み, 火山災害の特徴について理解しており, 地理的技能を身に付けている。	火山の分布, 火山の恵み, 火山災害の特徴について, 多面的・多角的に考察し, 表現している。	火山の分布, 火山の恵み, 火山災害の特徴について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究, 解決しようとしている。
	4 気象災害と防災	2	地域で異なる気象災害, 都市化による水害の変化について理解しており, 地理的技能を身に付けている。	地域で異なる気象災害, 都市化による水害の変化について, 多面的・多角的に考察し, 表現している。	地域で異なる気象災害, 都市化による水害の変化について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究, 解決しようとしている。
	5 自然災害への備え		災害の被害を軽減するための取り組み, 防災情報の活用, 巨大地震への備えについて理解しており, 地理的技能を身に付けている。	災害の被害を軽減するための取り組み, 防災情報の活用, 巨大地震への備えについて, 多面的・多角的に考察し, 表現している。	災害の被害を軽減するための取り組み, 防災情報の活用, 巨大地震への備えについて, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究, 解決しようとしている。
第 3 部 第 2 章	1節 生活圏の調査と地域の展望	3	生活圏の調査を基に, 地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法 などについて理解している	生活圏の地理的な課題について, 生活圏内や生活圏外との結び付き, 地域の成り立ちや変容, 持続可能な地域づくりなどに着目して, 主題を設定し, 課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察, 構想し, 表現している。	生活圏の調査と地域の展望について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究, 解決しようとしている。

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
数学	数学Ⅰ	全学科	1	3	新 高校の数学Ⅰ(数研出版)	ポイントノート数学Ⅰ(数研出版)

1 科目の目標と評価の観点

目標	数と式や2次関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
	数と式や2次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
評価の方法・割合等	定期考査 平常考査 課題プリント 等		定期考査 平常考査 課題プリント 等		平常課題 夏冬課題 ポートフォリオ 授業態度・発表 等	
	4割		3割		3割	

2 学習計画と観点別評価規準 ※履修月は目安

学習内容		月	観点別評価規準等		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1章 第1節 数と式の計算	1. 計算の基本	4	○正の数、負の数の加法、減法、乗法の計算ができる。 ○分数の計算ができる。 ○四則の混じった計算の優先順位にしたがって計算できる。	○四則が混じった計算の優先順位を正確に判断できる。	○これからの学習の基礎となる数の計算方法に関心をもち、積極的に習得しようとする。
	2. 単項式と多項式		○文字を使った式で数量を表すことの必要性を理解している。 ○単項式や多項式、次数、同類項など式に関する用語を理解している。 ○多項式の同類項をまとめ、次数の大きい順に整理することができる。	○ある数量について、文字を使った式で表現することができる。	○単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。
	3. 多項式の加法と減法		○多項式の加法、減法の計算ができる。		
	4. 多項式の乗法		○指数法則を理解し、単項式の乗法の計算ができる。 ○指数法則や分配法則を用いて、多項式の乗法の計算ができる。	○式の展開と分配法則の関係を考察することができる。	○多項式の乗法には、数の場合と同様に分配法則が使えることに関心をもち、考察しようとする。
	5. 展開の公式	5	○展開の公式を利用できる。	○展開の公式の導き方を、面積図を使って考察することができる。	
	6. 因数分解	6	○共通因数をみつけ、共通因数のくくり出しができる。 ○因数分解の公式を利用できる。	○たすき掛けの仕組みを理解している。	○展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。
	7. 展開、因数分解の工夫		○文字のおきかえを利用して、展開や因数分解を行うことができる。	○文字をおきかえることで、展開や因数分解の公式を適用できるようになることを見通せる。	○おきかえなどの工夫によって、よりよい方法を考察しようとする。
	8. 根号を含む式の計算		○平方根の意味を理解している。 ○根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。 ○分母を有理化することができる。	○根号を含む式の乗法の計算に、展開の公式を適用することができる。	
	コラム 平方根のおよその値				○語呂合わせによる平方根の近似値の覚え方に関心をもち、他の値の覚え方を自ら調べようとする。
	9. 実数		○有理数と無理数の違い、および実数について理解している。 ○小数で表したときの特徴から、分数を有限小数と循環小数に分類すること	○実数を数直線上の点の座標として考察することができる。 ○実数の絶対値を、数直線上で原点からの距離として考察することがで	○今まで学習してきた数の体系について整理し、考察しようとする。

			ができる。 ○絶対値の意味と記号表示を理解している。	きる。	
	確認問題	7		○問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式を使えばよいかを的確に判断できる。	
	コラム 円周率と分数				○値が円周率に近い分数と円周率の日との関連に関心をもち、インターネットを使って自ら調べようとする。
第2節	1. 1次方程式	9	○方程式における解の意味を理解し、1次方程式を解くことができる。	○日常の問題を解決するのに、1次方程式を活用することができる。	
1次不等式	2. 不等式		○不等号の意味を理解している。 ○不等式が値の範囲を表すことを理解し、その範囲を数直線上に表すことができる。 ○不等式の性質を理解している。	○数量の大小関係を式で表現することができる。 ○不等式の性質を、数直線上の点と対応させて考察することができる。	○不等式の性質について、等式の性質と比較して、考察しようとする。
	3. 不等式の解		○不等式における解の意味を理解し、1次不等式を解くことができる。 ○連立不等式の意味を理解し、連立1次不等式を解くことができる。	○不等式の性質を基に、1次不等式を解く方法を考察することができる。 ○日常の問題を解決するのに、1次不等式を活用することができる。	○1次不等式の解き方について、1次方程式の解き方と比較して、考察しようとする。
	確認問題				
	コラム 不等号と日本語	10		○大小関係を表す日本語を使って、文章を適切に表現することができる。	○大小関係を表す日本語に関心をもち、意識してその日本語を用いようとする。
	章末問題				
	コラム 素早く計算する				○展開の公式を利用して、数の計算を素早く行うことに関心をもち、考察しようとする。
	課題学習 紙の形の秘密にせまる				○B5やA4などの紙を折り曲げる作業を通して、相似となることを発見し、長方形の2辺の長さの比を考察しようとする。さらに、インターネットなどを利用して深く調べようとする。
第2章	1. 関数	11	○関数について理解している。 ○関数の値を求めることができる。	○2つの数量の関係を関数の式で表現することができる。	○日常の事象の中に関数を見つけようとする。
第1節	2. 1次関数のグラフ		○座標について理解している。 ○対応表を利用して、1次関数のグラフをかくことができる。 ○傾きと切片に着目して、1次関数のグラフをかくことができる。	○関数を表、式、グラフによって考察することができる。 ○$y=ax+b$のグラフを$y=ax$のグラフをy軸方向に平行移動したものとみて考察することができる。	
2次関数のグラフ	3. 2次関数のグラフ(1)		○放物線の形や軸、頂点について理解している。 ○$y=ax^2$のグラフをかくことができる。 ○$y=ax^2+q$のグラフをかくことができる。 ○$y=a(x-p)^2$のグラフをかくことができる。 ○$y=a(x-p)^2+q$のグラフをかくことができる。	○$y=a(x-p)^2+q$のグラフについて、x軸方向、y軸方向の平行移動の組み合わせとみて考察することができる。	○放物線のもつ性質に興味・関心をもち、自ら調べようとする。
	4. 2次関数のグラフ(2)	12	○ax^2+bx+cを$a(x-p)^2+q$の形に変形できる。 ○平方完成を利用して$y=ax^2+bx+c$のグラフをかくことができる。		
	確認問題			○問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、グラフのかき方を的確に判断できる。	

第 2 節 2 次 関 数 の 値 の 変 化	1. 2 次関数の最大値, 最小値	1	○2 次関数が最大値または最小値をもつことを理解している。 ○平方完成を利用して, 2 次関数の最大値, 最小値を求めることができる。 ○2 次関数の定義域に制限がある場合に, 最大値, 最小値を求めることができる。	○2 次関数の値の変化をグラフから考察することができる。 ○日常における最大・最小の問題の解決に, 2 次関数を活用することができる。	○2 次関数の最大・最小の問題を, 図をかいて視覚的に考察しようとする。
	2. グラフと 2 次方程式		○因数分解を利用して 2 次方程式を解くことができる。 ○解の公式を利用して 2 次方程式を解くことができる。 ○2 次関数のグラフと x 軸の共有点の x 座標を求めることができる。	○2 次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を, 2 次方程式と関連させて考察することができる。	○2 次方程式がどんな場合でも解けるように, 解の公式を得て, それを積極的に利用しようとする。
	3. グラフと 2 次不等式	2	○2 次関数のグラフを利用して, 2 次不等式を解くことができる。 ○式を解きやすい形に変形してから 2 次不等式を解くことができる。	○2 次不等式の解と 2 次関数の値の符号を相互に関連させて考察することができる。	○2 次不等式を解くときに, 図を積極的に活用しようとする。
	確認問題			○問題をランダムに配した「まとめ」を解く際, 2 次方程式や 2 次不等式の解法を的確に判断できる。	
	問題	3			
	コラム パラボラ＝放物線				○パラボラアンテナや車のヘッドライトなどに放物線の性質が役立っていることに興味をもち, 性質の原理を考察しようとする。
	課題学習 たこ焼きの値段を考える			○日常における最大・最小の問題の解決に, 2 次関数を活用することができる。	○たこ焼きの販売において売上個数と値段設定との関連に関心をもち, 表や 2 次関数を使って売上金額の最大を考察しようとする。

令和5年度「科学と人間生活」年間学習指導計画案(シラバス)

教 科	理 科	学科・学年・学級	1年全学科	単 位 数	2 単位
		教 科 書	科人702「科学と人間生活」 実教出版		
科 目	科学と人間生活	副 教 材	「科学と人間生活エブリノート 授業のまとめ」 実教出版		
教科の目標	自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
科目の目標	自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを見通しをもって行うことなど通して理解し、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。				
評価の観点	知識・技能【知】 4割		思考・判断・表現【思】 3割		主体的に学習に取り組む態度【態】 3割
趣 旨	自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。		人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。		自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。

学 期	月	学習内容	学習活動・学習のねらい	評価の観点			評価規準(評価方法)	備考
				知	思	態		
第 1 学 期	4	1章 科学と技術の発展 1.科学と技術の始まり 2.海 —とくに深海を科学の眼で見よう— 3.土 —農業を通して考える—	・現代の科学技術文明が科学によって支えられ、発展してきたこと、科学技術と科学を切り離して考えることができないことを理解させる。 ・海洋の研究・調査の話題を通して、科学の各分野がかかわっていること、科学の研究が私たちの生活にいかされていることを理解させる。 ・農業には、生物や気象などさまざまな自然現象が関連しており、科学技術を利用することで農業が発展してきたことを理解させる。 ・自然界には未知のことが多くあるとともに、科学技術によって地球環境に影響を及ぼすことがあることを理解させ、科学には課題があり、研究が進められていることに気づかせる。			○	・科学の発展の歴史に興味をもち、人間生活を支える技術が科学とどのように関わり合って発展してきたか、意欲的に学習しようとする。(授業態度)	・深海の微生物や土壌中の微生物については、3章2節「微生物とその利用」を参照して学習させることも可能である。 ・プレート運動による現象については、5章2節「身近な自然景観と自然災害」を参照して学習させることも可能である。 ・肥料等については、人工の物質が必ずしも我々の生活にプラスとなるだけではないことも考えさせたい。 ・農地の生物については、3章2節「微生物とその利用」の生態系における物質循環を参照して学習させることも可能である。
					○		・現代の科学技術について歴史的な経緯を踏まえ、人間と科学技術の関係における問題点を考えて、将来に向けての展望を持つとともに、それを表現することができる。(発問評価)(平常考査)	
				○	○		・海洋について進められている研究・開発の概要を理解し、日本における海洋研究の意義や役割を考察することができる。(課題提出)(平常考査)	
				○	○		・農業における微生物の役割や、化学肥料の開発における尿素の合成など、科学と技術の発展に際し観察・実験の果たした役割についてまとめることができる。(課題提出)(平常考査)	
				○	○		・科学技術はさまざまな努力によって築き上げられたものであること、および人間生活を豊かにするが使い方を誤ると人類の将来だけでなく地球全体にも大きな影響を及ぼすことにもなることを理解している。(平常考査)(定期考査)	
	5	2章 物質の科学 2節 食品と衣料 1.衣食にかかわるさまざまな物質 2.食品にかかわる物質 特集 食品表示と健康 3.衣料にかかわる物質 特集 衣料に新たな性質・機能を与える加工	・食品や衣料を構成する物質の多くが高分子化合物であることに気づかせる。 ・ミネラル、ビタミンについても触れる。 ・糖類(炭水化物)の種類を説明し、糖類がどのようなものに含まれているか理解させる。 ・生体内での代謝にも触れ、エネルギー源として重要であることに気付かせる。 ・タンパク質を構成するアミノ酸の構造と特徴を理解させる。 ・アミノ酸の重合体であるタンパク質についてその構造と性質を学習させる。 ・油脂は生体のエネルギー源であり、また、生体内に蓄積されていて生命の維持に欠かせないものであることを学習させる。 ・油脂の構造とその特徴を理解させる。 ・酵素の種類と働きを日常生活と関連付けて理解させる。 ・酵素がタンパク質でできていることから、どのような特徴を持っているかに触れる。 ・天然の繊維とその特徴を生かして人工的につくられた化学繊維があることを説明し、その分類を理解させる。 ・天然の繊維には植物性のものと動物性のものがあり、それぞれに特徴があることを学習させる。 ・再生繊維は天然繊維の不都合な部分をうまく改良したものであることを理解させる。 ・合成繊維(化学繊維)は重合によってつくられたものであり、いろいろな種類が存在することを理解させる。			○	・身近な食品中の成分や、衣料材料の性質や用途を追求し、生命の維持と快適な生活にこれらの食品や繊維がどのように利用されているか関心を持ち、意欲的に学習しようとする。(授業態度)	・炭水化物、タンパク質、脂質が基本的な重合による高分子化合物であることも言及しておく。炭水化物(デンプン)が光合成により生産されたものであることを確認することも有効である。 ・タンパク質が20種類のアミノ酸の組み合わせで成り立つことに触れておく。生体におけるタンパク質の合成については、3章1節を参照させることも可能である。 ・身の回りのタンパク質でできているものを調べたり、その性質を考えさせたりすると、特徴の整理に有効である。 ・様々な油脂製品のラベルを調べ、比較することもできる。 ・3章と関連させ、アレルギーに関する理解を深めることも有効である。 ・6章と関連させ、食品添加物について実際の食品を用いて調べることも可能である。 ・生体が行う反応(呼吸や光合成など)に酵素が関係していることに触れる。 ・実験により酵素反応の特徴をとらえると理解が得られやすい。 ・天然の繊維と人工的な繊維の違いを繊維の学習への導入として説明する。 ・合成繊維はよく似た特徴を持つことに気付かせる。 ・家庭科での繊維の学習にも関連付けられる。
				○			・食品や衣料を構成する物質の多くが高分子化合物であること理解し、天然高分子化合物と合成高分子化合物に分類することができる。(平常考査)(定期考査)	
					○		・食品中の成分が生命体においてどのような役割を果たしているか学習を通して総合的に判断し、表現することができる。(課題提出)	
					○		・天然の繊維と合成繊維の性質の違いによる用途の違いなどを的確に考察することができる。(発問評価)(平常考査)	
					○		・食品中の成分を抽出する実験や、簡単な化学繊維の合成などの観察・実験の技能を習得し、その構造や成分の違いに関して考察することができる。(課題提出)	
				○	○		・食品中の成分や衣料材料についてそれぞれの性質を把握し理解している。またその成分や構造の違いから生ずる性質の違いを理解し、それぞれの性質の良さを見極めて日常生活に適切に利用できる。(平常考査)(定期考査)	

6	3章 生命の科学 2節 微生物とその利用 1. いろいろな微生物 特集 いろいろな微生物のなかま 2. 微生物の利用 3. 生態系での微生物	・空気中の微生物の培養や水中の微生物の観察を通し、身近にいろいろな微生物がいることに気づかせる。 ・地球上のあらゆる場所に微生物がいることを学習させる。また、微生物の種類について理解させる。 ・微生物発見の歴史について学習させるとともに、パスツールがどのようにして生物が自然発生しないことを証明したかについて、実験の追体験を通して気づかせる。 ・発酵食品中の微生物の観察を通し、発酵が私たちの生活に深く関わっていることを理解させる。 ・腐敗も微生物の働きによっていることを理解させ、腐敗を防ぐための食品の保存方法についても考えさせる。 ・アルコール発酵の実験を通し、使われる物質や生産される物質について理解させるとともに、発酵と温度との関係を見いださせる。 ・大豆を用いた発酵食品には、みそ・しょう油・納豆など、日本の代表的な食材があることについても学習させる。 ・微生物は、医薬品を作ることに役立っていることを、ペニシリン発見にも触れながら理解させる。 ・遺伝子組換えによりつくられる医薬品があることや、ワクチンが病気の予防に役立っていることを学習させる。 ・下水処理の仕組みを学習させ、下水処理には微生物の働きが関わっていることを理解させる。 ・下水処理に使われる活性汚泥中の微生物の観察を通し、活性汚泥について理解を深めさせる。 ・空気中の微生物が有機化合物を分解することを、実験を通して理解させる。 ・生態系での物質循環に微生物がどのように関わっているかを学習させる。				・微生物の存在や生態系における役割について関心を持ち、意欲的に学習しようとする。(授業態度)	・微生物の培養では、コロニー形成までに時間がかかるので、実験計画を立てておく必要がある。 ・近くに湖沼等がない場合は、理科室などに水槽を設置し、微生物を増やしておく等の工夫をする。 ・家庭科「家庭基礎」「家庭総合」では、乾燥や発酵などの加工により食品の保存性を高めていることが取り上げられている。 ・乳酸菌飲料・納豆・発酵を利用した漬け物など、食品中の微生物の観察を取り上げる。 ・家庭科「生活デザイン」では、「食生活と環境」で食品の腐敗に触れている。 ・アルコール発酵の実験に使用するパン酵母やヨーグルト作成に使用する種菌は、市販されている。 ・保健体育科「保健」では、「現代の感染症とその予防」で、感染症に触れている。 ・活性汚泥は、下水処理場に依頼すると入手できる。 ・環境教育の一環として取り上げることもできる。 ・観察・実験「空気中の微生物の観察」とあわせて計画することで、準備の効率化をはかることができる。
						・微生物と人間生活の関わりについて関心を持ち、意欲的に学習しようとする。(授業態度)	
						・微生物の存在や働きについて、実験を通して考察し、表現することができる。(課題提出)	
						・微生物の発見など歴史的な事項についての学習を通し、科学的な思考をもとに考察し、表現することができる。(発問評価)(平常考査)	
						・身近な微生物、水の浄化に関わる微生物の観察や発酵における微生物の働きについての実験などを通し、観察・実験技能を身につけるとともに、結果や考察を的確に表現することができる。(課題提出)	
						・様々な微生物の存在や働き、生態系での役割について得た知識を、人間生活と関連づけて理解できる。(平常考査)(定期考査)	
9	4章 光や熱の科学 2節 光の性質とその利用 1. 光 2. 電磁波の利用 特集 電磁波と宇宙・地球の観測	・光の直進性について、観察を通して学習させ、光を直線で見えることを理解させる。 ・光の反射の法則を実験によって理解させるとともに、乱反射によって身の回りを見ることができることを理解させる。 ・屈折の法則を理解させるとともに、屈折現象から光の進む物質が異なることを意識させる。 ・屈折を利用して、レンズがつくられていることを理解させる。 ・凸レンズを通る物体からの光の関係を学習させ、おのおののレンズでできる像について理解させる。 ・白色光の分散は、光の性質によってでき、それによってできるスペクトルは、光の波長によることを理解させる。 ・可視光は電磁波の一種であり、また、電磁波は波長の違いによって様々な利用されていることを学習させる。 ・波の特性としての回折と干渉について、実験を通して学習させ、光が波であることを理解させる。 ・偏光について、光が波であることから理解させる。 ・物質と偏光との関係を実験を通して学習させ、その利用について理解させる。 ・光を使っていろいろな物を見ることができ、光は電磁波の一種であることから、電磁波を使って様々なものを見ることができ、それを理解させる。 ・光に関わる技術の進歩により、幅広く利用されていることを学習させる。				・自然界に見られる光の現象に関心を持ち、意欲的に調べようとする。(授業態度)	・光の反射については、中学校でも学習している。生徒の実態に合わせ、指導の充実をはかる。 ・実像と虚像についての区別を明確にする。 ・中学校でも屈折については学習しているが、定性的理解なので、定量的にとらえさせる。 ・レンズの倍率については、レンズの厚さとも関わることに注意させたい。 ・3章1節の「眼の構造とはたらき」とも関連させたい。 ・身の回りの現象の中に、シャボン玉の表面の色のようなものをみつけさせることで、光の干渉現象をみつけさせたい。 ・偏光板を実際に使わせて、偏光現象を体験させたい。 ・技術の側面から、電磁波がどのような分野で利用されているかを調べさせることも大切である。 ・情報伝達ということから、通信手段としての携帯電話だけでなく、映像や音楽をデータとして伝えるなど、技術が身近に見られることを意識させるとよい。
						・電磁波に関わる科学技術が生活とどのような関係を持つかに関心を持ち、科学的な見方・考え方を身につけようとする。(授業態度)	
						・身の回りに光の現象を見出し、波の性質を使い、それらを科学的に分析して、総合的に判断するとともに、それを表現することができる。(発問評価)	
						・幾何光学的な方法によって、光の波としての性質を表す観察・実験の技能を習得し、結果や考察を適切に表現できる。(課題提出)	
						・光が波であることを、回折や干渉など波の性質を持つことから理解し、身の回りの現象として見出せる。(平常考査)(定期考査)	
						・電磁波が波長によって分類でき、光もその一つであること、電磁波が日常生活で利用されていることを理解できる。(平常考査)(定期考査)	
						・電磁波が波長によって分類し、結果や考察を的確に表現できる。(課題提出)	
						・身の回りの科学技術に利用されている電磁波を論理的・実証的に分析、考察し、総合的に判断することができる。(発問評価)	

第3学期	11	5章 宇宙や地球の科学 2節 身近な自然景観と自然災害 1. 身近な景観のなりたち 2. 地球内部のエネルギー 3. 自然の恵みと自然災害 特集 地場産業と地学 特集 防災	・身近な地域の自然景観を、流水の作用など大地を平坦にする変化および火山活動など大地の起伏を大きくする変化と関連付けて学習させる。 ・身近な自然景観が風化作用、侵食作用、運搬作用・堆積作用などにより、長い時間の中で変化してきたことを理解させる。 ・地震や火山分布がプレートの境界面で起きていることを理解させる。 ・日本列島の地質的な特徴をプレートテクトニクス等で理解させる。 ・日本列島の地質的な特徴としての「島弧-海溝系」について学習し、現在の日本列島の特徴を概観させる。 ・火山のメカニズムを学習し、火山災害を引き起こす現象を理解させる。 ・地震のメカニズムを学習し、地域において将来おこる可能性のある地震のタイプや規模などを確認させる。 ・地殻変動によって私たちに多くの恵みがもたらされていることを理解させる。 ・2節の学習を振り返りつつ、身のまわりで起こりうる災害について、対策を検討する。	○	○	○	・身近な自然景観や自然災害に関心を持ち、意欲的に調べようとする。(授業態度) ・自然景観の成因や自然災害の起きる状況を理解し、災害リスクを減らすための、科学的な見方・考え方を身につけようとする。(授業態度) ・身近な自然景観を適切に観察し、結果や考察を的確に表現できる。(課題提出)(平常考査) ・身近な自然景観の成因、日本列島の成り立ちを科学的に分析して、総合的に判断し、それを表現することができる。(発問評価) ・自然災害の起きる原因や条件を理解し、災害リスクを減らすための方法について総合的に判断し、それを表現することができる。(発問評価) ・地震や火山のハザードマップなどを調査検討し、災害リスクを的確に表現できる。(課題提出) ・自然景観の成因や日本列島の成り立ちとその変化について理解し、自然景観の恩恵と自然災害のリスクを理解できる。(平常考査)(定期考査)	・大地の成り立ちと変化については中学校で学習している。学校の周辺にある特徴的な地形について実際に観察などを行うとよい。 ・野外観察を行う際には、安全に十分配慮し、計画的に実施する。 ・地形図の等高線を色鉛筆で色づけしてみると特徴的な地形が発見できる。実際に野外観察できるとよい。 ・日本の天気の特徴については中学校および1節で学習するが、身近な地域の気象の特徴を確認したい。 ・観察実験6「地域で起こった災害の調べ方」で、過去の災害の歴史をさぐり、洪水で浸水危険地域がどこにあるか実際に歩いて調査させたい。
	1	6章 これからの科学と人間生活 (課題研究等)	・科学技術の成果と今後の課題について考察し、科学技術と人間生活との関わりについて探究させる。 ・課題研究にあたっては、授業で学んできたことだけでなく、日常的な生活にも目を向けて課題の設定ができるようにする。 ・探究の仕方を学ぶことも大きな目標なので、様々な方法で研究し、発表をすることができるようにする。	○	○	○	・科学と人間生活の間に現在生まれている新しい課題に関心を持ち、具体例を考え、研究しようとする。(授業態度) ・科学と人間生活に関する課題について具体例をあげ、その課題の研究を通して今後の科学研究や人間生活のあり方について考え、それを表現することができる。(課題提出) ・課題選択と研究方法の獨創性や計画性、参考資料の使用や研究準備の適切さ、実験・調査・観察の技能や記録の正確さ、レポートの表現のわかりやすさ、課題とその結果にふさわしい発表の工夫(表・グラフ・コンピュータの使用)ができる。(課題提出)(平常考査) ・課題研究から明らかにされた結果や関連する事項が理解できる。(課題提出)	・研究を進めていく中で新たな課題を設定する必要があるもので、十分な時間を設定したい。 ・総合的な学習の時間でも、環境問題を始めとして、エネルギーに関する課題の設定がされる場合がある。同じ課題を設定してより深く研究することも可能である。

科目「 体育 」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	体育	単位数	2単位	学年・学科	全学科1学年
使用教科書	なし				
副教材等	アクティブスポーツ2023				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	体を動かし、爽快感、達成感、他者との連帯感、楽しさや喜びを味わい、体力向上、ストレスの発散、生活習慣病予防等の効果をもたらし、心身両面の健康の保持増進を促す。
学習の到達目標	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	欠席や忘れ物をする事なく、主体的に授業に出席する。公正な態度で、協力的に動き、行動に責任を持つ。水泳および長距離走は完全実施（補習がある）。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	体づくり運動	○体を動かす、心と体をほぐす、動きを高める	一斉・グループ 個別	ラジオ体操 水泳 球技 補習(水泳)
5	集団行動、ラジオ体操	○集団行動を学ぶ、ラジオ体操を学ぶ		
6	水泳・球技選択	○4泳法に挑戦するとともに、命について学ぶ		
7		○仲間との協力とともに技能を高める		
9	球技選択	○仲間との協力とともに技能を高める。	一斉・グループ 個別	球技 陸上競技 補習(長距離) ロードレース
10	体育理論	○公正、協力、責任、参画の態度を学ぶ。		
11	陸上競技(長距離走)	○運動の持続力、集中力を高め、タイムに挑戦する。		
12	球技選択			
1	体づくり運動	○体力の向上に重点を置き、体力を高めるための	一斉・グループ 個別	球技 陸上競技
2	球技選択	運動、実生活に生かせる運動を行う。		
3	体育理論	○活動計画を立て、実践する。		

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。 【技能テスト・記録測定・理解度チェック、観察】	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【観察、発表、ワークシート、レポート】	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保している。 【観察・授業態度、出席状況】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
授業観察・テスト	40	10	10	60	
提出物等		10		10	
授業態度・発表		10	10	20	
出席状況			10	10	
				100%	

科目「保健」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	保健	単位数	1単位	学年・学科	全学科1学年
使用教科書	現代高等保健体育(大修館)				
副教材等	現代高等保健ノート(大修館)				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	健康に関する興味関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用して思考力、判断力を育成する。
学習の到達目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力が身につく。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	主体的に授業に参加し、定期考査を受ける。提出物を必ず提出する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	健康の考え方 生活習慣病などの予防と回復	○健康の考え方と成り立ち、疾病構造の変化 ○生活習慣病とその予防、がんの予防 ○食事、運動等と健康	一斉授業 グループワーク	平常考査 学期末考査
9 10 11 12	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 精神疾患の予防と回復 現代の感染症とその予防	○喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ○精神疾患の特徴、予防 ○健康に関する意思決定、行動選択 ○現代感染症と予防	一斉授業 グループワーク	平常考査 学期末考査
1 2 3	安全な社会作り 応急手当	○事故の現状と発生要因 ○交通安全 ○応急手当の意義とその基本 ○日常的な応急手当○心肺蘇生法とその原理	一斉授業 グループワーク 実習	平常考査 学年末考査

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度
評価の観点	個人及び社会生活における健康安全についての理解を深めるとともに、技能を身につけている	健康についての自他や社会の課題を発見性、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境作りを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価の方法割合等	・定期考査・平常考査 ・提出物・発表	・定期考査 ・提出物 ・授業状況	・定期考査 ・平常考査 ・授業態度・出席状況
	4割	3割	3割

科目「音楽Ⅰ」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	音楽Ⅰ	単位数	2単位	学年・学科	1学年全学科
使用教科書	高校音楽Ⅰ 「MOUSA 1」 (教育芸術社)				
副教材等	なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	音楽の幅広い活動を通して、音楽的見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。
学習の到達目標	歌唱・ギターを中心に音楽を表現する喜びと楽しさを経験し、表現力や創造的能力を伸ばすと共に、アンサンブルにおいて協調性の美しい響きと調和を感じて演奏することで豊かな感性を培う。
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	・様々なジャンルの音楽、楽典 ・姿勢や身体の使い方、呼吸法、共鳴の様子など ・ギター固有の音色、基礎的奏法 和音、和声	・曲想、音楽の歌詞やメロディーなど曲の分析をする。また演奏に必要な音符、リズムの学習をする。 ・身体の使い方と呼吸法に着目して音楽表現に結びつけて歌う。 ・リズムと音階を覚えて音譜力をつける。	・一斉授業 (座学)	平常考查 学期末考查
9 10 11 12	・声の音色や強弱、旋律におけるフレーズを生かした表現 ・ギターの特徴、曲のリズム・フレーズのまとめ、和音、和声で生み出される曲の表現 ・アンサンブルの表現形態や曲想にふさわしい表現	・周りの声をよく聴きながら歌うアンサンブルの能力を高める。 ・ギター特有の音色を感じ取りテキストを奏でる。 ・楽器の音色、曲のリズム・フレーズ、和音、和声などで生み出される曲想を工夫して表現する。 ・アンサンブル曲にイメージを持ってふさわしい表現を追求する。	・一斉授業 (座学)	平常考查 ステージ発表 学期末考查
1 2 3	・物語の音楽を知る。 ・伝統音楽	・様々な舞台音楽を学び表現方法の違いを話し合わせて楽曲の特徴を理解して鑑賞する。 ・それぞれの国や地域の音楽の文化的・歴史的背景を理解する。	・一斉授業 (座学)	平常考查 学年末考查

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価の方法	定期考查 平常考查 課題プリント 発表 等	定期考查 平常考查 レポート 授業態度 等	授業態度 発表 出欠状況 等
割合等	4割	3割	3割

科 目「書道Ⅰ」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	書道Ⅰ	単位数	2単位	学年・学科	1学年全学科
使用教科書	書Ⅰ（光村図書）				
副教材等	なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	漢字（楷書・行書・草書・隸書）の書で様々な書風に触れて、日本文化への理解を深め、現代社会でも生きる書道の役割と効果を理解し実践させる。また、自らの創意工夫を活かし創作作品に取り組む。
学習の到達目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
取得可能な資格	文部科学省後援硬筆・毛筆書写技能検定（希望者のみ）
授業を受ける心構え	授業には意欲的に取り組み、始業前には書道道具や教科書やノートの準備をし、授業を「聞く」姿勢を整えておく。また、提出物は必ず期限を守って出す。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	書に親しむ 書の美 書体の変遷 漢字～楷書～	姿勢・執筆法／用具・用材／漢字の変遷／楷書の学習／細字	文房四宝（直接手に触れ使用する）	作品 小テスト 平常考査 定期考査
9 10 11 12	漢字～行書～ 創作・鑑賞 漢字～篆書～ 硬筆	行書の学習（成り立ち・臨書・鑑賞）／日本の行書／三筆・三跡／創作・鑑賞／篆書の学習／基本的硬筆		作品 小テスト 平常考査 定期考査
1 2 3	仮名の書 実用書 生活の中の書	仮名の成立／基本用筆法／筆ペン使用方法／表書き／宛名書き／		作品 平常考査 定期考査

3. 評価の観点と方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評価の方法	・定期考査 ・平常考査 ・提出物 ・作品発表 等	・定期考査 ・平常考査 ・小テスト ・レポート ・授業態度 等	・授業態度 ・出席状況 ・作品発表 等
割合等	4割	3割	3割

科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3単位	学科・学年	全学科 1年
使用教科書	COMET English CommunicationⅠ（数研出版）				
副教材等	COMET基本文法定着ドリル ¹ （数研出版）、チャンクで英単語Basic、ドリルノート（三省堂）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	積み重ねの教科であり、中学校の基礎から高校の基礎につなぐ。
学習の到達目標	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。
取得できる資格	実用英語技能検定
授業を受ける心構え	授業に積極的に参加し、教材プリントやノートをきちんと仕上げ、提出する。

2. 計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	言語材料・言語活動	その他・ 考查
4 5	Introduction 1-2 Get Ready	・英語を学習する意義や必要性を自分なりに考え、答えることができるようにする。【主】 ・自分のことを英語で表現できるようになる。【知、思】 ・基礎的な文法事項を復習し、定着を図る。【知、思】	・アルファベット ・教室で使う英語表現 ・be動詞 ・一般動詞など	平常考查 中間考查
6 7	Get Ready Lesson 1 What did you do in Japan? パフォーマンステスト	・語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【主、知】 ・本文を読み、海外からの旅行者の日本での経験を知る。【主、知】 ・学習した語句を使って自分の意見を話し、書くことができる。【主、思】 ・思い出に残っている経験について聞き、まとめることができる。【主、思】 ・自分の思い出に残る経験について、考えを書くことができる。 ・基礎的な動詞の過去形の用法を理解する。【主、知】	・動詞の過去形 ・旅行に関する語句 ・都市名	平常考查 期末考查
9 10	Lesson 2 When do you feel happy?	・語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【主、知】 ・本文を読み、他の人の好きなことやその理由を知る。【主、知】 ・「趣味」についての発表を聞き、まとめることができる。【主、思】 ・自分が好きなことや熱中していることについて、考えを書くことができる。【主、思】 ・基本的な進行形の用法について理解する。【主、知】	・進行形 ・「好きなこと」を表 す語句 ・提案する表現 Why don't you~?	平常考查 中間考查
11 12	Lesson 3 Onigiri goes overseas パフォーマンステスト	・語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【主、知】 ・本文を読み、海外でのおにぎりの人気を知る。【主、知】 ・日本文化を紹介する記事と、それを読んだ後の対話を聞くことができる。【主、思】 ・基本的な助動詞の用法について理解する。【主、知】 ・助動詞を用いた対話を完成させ、簡単なやり取りをすることができる。【主、思】 ・イラスト描写（現在進行形を用いて）を英語で行い、英語での質問に英語で答えることができる。	・助動詞 ・進行形 ・日本文化に関す る語句 ・追加する表現 in addition ・相手を励ます表 現	平常考查 期末考查
1 2 3	Lesson 4 Pictograms Lesson 5 Morita Yuko パフォーマンステスト	・語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【主、知】 ・本文を読み、ピクトグラムやファシリティドッグについて知る。【主、知】 ・ピクトグラムに関するクイズや職業に関するインタビューを聞く。【主、思】 ・基本的な不定詞の用法や動名詞について理解する。【主、知】	・不定詞 ・動名詞 ・ピクトグラムが表す 語句や職業に関 する語	平常考查 学年末考查

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
・基本的な単語や語句の意味を理解し、正しく発音できるか。 ・例文を暗記でき、簡単な内容の英文が理解できるか。 【定期考查・平常考查】 【パフォーマンステスト】 【提出物】 【授業中の態度】	・自分の考えや意見を基本的な英語を使って表現できるか。 【定期考查・平常考查】 【パフォーマンステスト】 【提出物】 【授業中の態度】	・授業中に積極的に質問したり、答えたりしている。 ・他の生徒の発表を聞いたり、発表しようとしている。 ・提出物を期限を守って提出している。 【パフォーマンステスト】 【提出物】 【授業中の態度】 【出席状況】
4 割	3 割	3 割

科目「家庭総合」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	家庭総合	単位数	2単位	学年・学科	1学年・農業、園芸、畜産科学、食品化学
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）				
副教材等	なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	家族や家庭の生活の営みを総合的にとらえ、生活をマネジメントする能力を育てる
学習の到達目標	生活のなかで課題を見だし、それを解決するための手立てを考え実践に繋げる
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	社会の動きに関心を持ち、把握するとともに、生活情報を収集し、生活課題に取り組む

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	自分をみつめる	・ 青年期の課題を理解し、自立を促す		①レポート
5	・ 人の一生と発達課題	・ 発達課題を理解し、将来を見通す力を養う		②小テスト
6	・ 青年期を生きる			③考査前対策プリント
7	・ 家族・家庭と社会	・ 現代の家族と家庭の機能を考える ・ 家族に関わる法律を知る		④学期末考査
9	着る	・ 被服製作をとおして、基礎的な縫製技術を身につける。	被服実習作品	被服実習作品
10	・ 被服をつくる			および
11	・ 被服の洗濯/管理/着用	・ 人間と被服の関わりを理解し、快適な衣生活を送ることができるようになる。		①～④
12	・ これからの衣生活			
1	住まう	・ 住生活の課題を理解し、安全で快適な住生活を送ることができるようになる。		①～④
2	・ 人間と住まい			
	・ 快適な住まい	・ 若者が陥りやすい消費者トラブルと対処法を理解する。		
3	消費者トラブル			

3. 評価の観点と方法

関心・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭および衣生活・住生活などについて科学的に理解しているとともに、それらにかかる技能を体験的・総合的に身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や地域社会の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
【定期考査・平常考査・テスト前対策プリント】	【定期考査、レポート、平常考査課題プリントなど】	【レポート、課題プリント、授業態度等】
4割	3割	3割

科目「農業と環境」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農業	単位数	4単位	学年・学科	1学年 畜産科学科
使用教科書	「農業と環境」実教出版株式会社				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業（畜産）及び環境に関する基礎的な知識と技術を習得する。
学習の到達目標	ニワトリの特性とプロジェクト学習への取り組みを理解する。 作物やニワトリを題材に農業の幅広い可能性を引き出す。
取得可能な資格	農業技術検定などの取得に活かす。
授業を受ける心構え	命を扱う授業を通して自覚と責任を持ち、命の大切さについて学ぶ姿勢をもつ

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	人間生活と農業と環境	人間生活と農業の関わりを学ぶ	調査学習	中間考查
5	農業生産と環境保全の基礎 栽培・飼育プロジェクトの進め方	地球規模の環境問題を学ぶ プロジェクト学習の方法を理解する	栽培実習	
6	サツマイモの栽培・管理	栽培の基礎を学ぶ	栽培実習	期末考查
7			生育調査	
9	冬野菜（ダイコン・水菜等）の栽培・管理	栽培の基礎を学ぶ	栽培実習	中間考查
10	鶏の生理生体／幼雛・中雛・大雛・成鶏・ブロイラーの特性及び管理／鶏の主な品種／病虫害／鶏の解体について理解する	鶏の生理生体／幼雛・中雛・大雛・成鶏・ブロイラーの特性及び管理／鶏の主な品種／病虫害／鶏の解体について理解する	飼育管理	
11	家畜の飼育・利用		成長観察	期末考查
12	初生雛・鶏の飼育・管理		および記録	
1	鶏の加工・利用		実験実習	
2	私たちの暮らしと食料・農業・農村	地域の農業・農村を知る	調査学習	学年末考查
3	プロジェクト学習のまとめ	プロジェクト学習への準備	プレゼン作成・発表	

3. 評価の観点と方法【 】は評価方法

知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 【授業・実習態度、出席状況】	農業と環境に関する課題と発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 【考查、レポート、授業態度】	農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 【授業・実習態度】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率（%）	その他
定期考查	15	10	5	30	学習到達度の確認
平常考查	10	10		20	学習到達度の確認
提出物等	5		5	10	予習・復習の確認
出席状況			10	10	授業参加意欲
授業・実習態度	10	10	10	30	
合計	40	30	30	100	

科目「総合実習」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農 業	単位数	2 単位	学年・学科	1 学年 畜産科学科
使用教科書					
副教材等	畜産（実教出版）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	各部門の家畜の飼育管理方法を身につける
学習の到達目標	実習を通して、家畜の飼育管理技術・生理生態を理解する
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	命を扱っているという自覚と安全性への意識

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	課題項目の設定	自らの課題設定の方法を理解させる。	・一斉授業(座学) ・実習・観察	意見発表 農業鑑定 学期末考查
5	題材に沿った年間計画	年間計画の設定を理解させる。		
6	飼育管理①	飼育管理について理解させる。		
7	飼育管理②	飼育管理技術について理解させる。		
9	各家畜の生理生態①	各家畜の生理生態について理解させる。①	・一斉授業(座学) ・実習・観察	学期末考查
10	各家畜の生理生態②	各家畜の生理生態について理解させる。②		
11	各家畜の繁殖生理①	各家畜の繁殖生理について理解させる。①		
12	各家畜の繁殖生理②	各家畜の繁殖生理について理解させる。②		
1	各家畜の病気	牛、豚の病気とその原因について知る。	・一斉授業(座学) ・実習・観察	学年末考查
2	各家畜の病気	馬、鶏、犬の病気とその原因について知る。		
3	まとめ	年間のまとめ		

3. 評価の観点と方法

知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各家畜の特性に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、実習で適切な管理法を実践できる。家畜の健康状態を観察し、状況を把握することができる。産業としての価値を理解する。 【考查、レポート、授業態度・発表】	学ぶ目的と学び方及び学習分野について考察する。 【考查、レポート、授業態度】	各家畜の特性や生態・習性に関心を持ち、意欲的に実習に参加すると共に、知識・技術について理解する。 【授業態度、出席状況】

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	知識・技術(技能)	思考・判断・表現	主体的に 学習に取 り組む態 度	比率(%)	その他
定期考查(平常)	30	10	10	50	学習到達度の確認
提出物等		5	5	10	
授業・実習態度・発表	10	10	10	30	取り組む姿勢
出席状況		5	5	10	授業参加意欲
合計	40	30	30	100	

科目「農業と情報」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科	農業と情報	単位数	2単位	学科・学年	畜産科学科1年
使用教科書	『農業と情報』 実教出版 発行				
参考資料	特記なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
学習の到達目標	(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	文書デザイン検定2級・3級
授業を受ける心構え	興味・関心・意欲を持つ。集中力を持って臨む。

2. 学習指導計画

月	学習内容（目次の項目）	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	1. 私たちの生活と農業の情報化	私たちの生活のなかには、情報を活用したさまざまな技術が生かされている。それらの個々の技術に目を向けるとともに、農業にどのように活用されているか、情報化社会におけるモラルとセキュリティの重要性、身に付けた技術をどのように活用するか、などを理解する。	・一斉授業 ・演習 ・グループ実習	期末考查 平常考查
9 10 11	2. 社会を支えるコンピュータ	コンピュータのしくみ、コンピュータで扱う情報の種類と表現、情報通信ネットワークとインターネットのしくみ、情報のセキュリティ管理、などを理解する。	・一斉授業 ・演習 ・グループ実習	中間考查 期末考查 平常考查
12 1 2 3	3. コミュニケーションと情報デザイン	さまざまなアプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。また、問題解決の過程やアイデアや気づきを引き出す思考技術を理解する。	・一斉授業 ・演習 ・グループ実習	学年末考查 平常考查

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技術 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
	農業と情報について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	農業と情報に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	農業と情報について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価の方法・割合等	【定期考査】 【平常考査】 確認テスト 実習 等	【定期考査】 【平常考査】 授業態度・発表 提出物	【平常考査】 ポートフォリオ 自己・相互評価 授業態度・発表 提出物
	4 割	3 割	3 割